

女性就業促進のためのコワーキングスペース

Coworking Space to Promote Employment for Women

杏林大学総合政策学部 田中ゼミナール
工藤大弥¹⁾, 笠原未菜美¹⁾, 西河頼良¹⁾

指導教員 田中信弘²⁾

- 1) 杏林大学総合政策学部 田中ゼミナール
- 2) 杏林大学総合政策学部教授

キーワード: 女性就業, コワーキングスペース, ワークライフバランス, ノマドワーカー, イノベーション

1. 日本における女性の社会進出の現状

近年の日本が抱える大きな問題が少子高齢化である。年金を必要とする高齢者が増加し、それを支える働き手が減少する。それにより企業は人手不足を訴えているが、日本では女性の社会進出が海外と比較すると遅れている。

安倍首相は、「日本経済成長の要因は、女性の力の活用である」とし、女性の就業率を上げるための労働機会や活動の場を充実させる取り組みを行っている。しかし、成果は出てはいるものの問題となるのは、「M字型カーブ問題」である。結婚や出産を機に30歳台で仕事を辞め、専業主婦となる傾向がなおある。また、育児を終える45歳頃から就業率が上がっているが、多くはパートでの雇用だ。このM字型カーブは近年緩やかになっているが、海外と比べると女性の進出は課題である。パートには「年収103万円の壁」があり、平均世帯収入を抑制させてしまう傾向がある。一方、女性就業率がどの世代でも高く維持し続けているスウェーデンは、仕事と結婚、出産、育児を両立できている。

2. 日本の女性労働の促進と問題点

女性の労働を促進させるにあたり、問題となるのが先ほど述べたパートの年収103万円の壁である。また、日本人が有してきた「女性=家事、育

児」の価値観を見直すことも重要だ。そのために、育児と仕事を両立するため、時間や場所に縛られないパート以外の働き方（ノマド・ワークなど）を広げていく必要があると考える。近年、新たに生まれてきている多様な働き方を知る必要がある。

女性が社会で活躍することによって労働力人口が増加し、優秀な人材のさらなる確保にもつながる。「女性が活躍する企業」で第1位のローソンでは、「ナチュラルローソン」という女性や健康志向の高い顧客をターゲットにした新たな店舗を展開した。このようなイノベーションを起こすためには、女性の活用や異業種の人々との交流が欠かせない。また、女性が活躍するにあたり家事・育児との両立も重要である。政府による様々な取り組みの成果が出始めているが、女性がより活躍できる社会にするためには、地域でのさまざまな取り組みが必要であると感じている。そこで八王子市で女性の社会での活躍を促進させるために「コワーキングスペース」の利活用を提案する。

3. コワーキングスペースの増加とその課題

異なる職業や仕事を持った人たちが集まり、作業場をシェアする目的でコワーキングスペースは誕生した。アメリカで誕生し、近年、日本でも都心部を中心に見られるようになった。現在、八王子駅前には、民間運営による8つのコワーキング

スペースがある（2019年10月時点）。それぞれのコンセプトは異なり、24時間利用可能、学生向けや女性専用などさまざまである。

図表1 八王子のコワーキングスペース概要

名称	料金	営業時間	アクセス
たましんインキュベーション施設 ブルームセンター	月額会員料金 4,500円	平日9:00~17:00	京王八王子駅 徒歩1分
コワーキングスペース八王子 419	学生1日500円 社会人1日1000円 貸し切り1日23000円	土曜日~日曜日: 10:00~22:00	JR八王子駅より徒歩7分
Honeycomb Stage+ (ハニカムステージ)	3時間料金: 1,000円 月額料金: 17,500円	平日 9:00~17:00	八王子駅より徒歩3分

出所) ホームページより作成。

今回、女性が活躍できる社会を作るためには、既存のコワーキングスペースにない仕組みを作り、提供することが必要だ。実践活動者を講師として招いたセミナーの開催を行い、多様な働き方の紹介やそれぞれの仕事のメリットなど、体験談をもとに伝えてもらう。コワーキングスペースで行う主な仕事内容は、ブログの運営や動画サイト内のチャンネル運営、ライター、翻訳家、デザイナーなどのノマド・ワークがあげられるが、それぞれの仕事体験なども提供するとともに、起業ノウハウについても情報提供・相談機会の場としていきたい。開設場所については、アクセスしやすい八王子駅前と2020年にオープン予定の滝山イオンモールの施設内の一面を提案したい。イオンモール内での広場を利用して、各商業店舗との協力したイベントなども行いたい。

4. 八王子市への提案

私たちが提案する新規のコワーキングスペースに関連する先行事例として、他の2つのコワーキングスペースを紹介する。これらの特徴を参考にしながら八王子に開設したい。

1) コワーキング COCO プレイス（厚生労働省委託サテライトオフィス）

多摩市の中心地にある保育室のある仕事場としてのコワーキングスペースである。自分らしく生きる楽しさを多くの女性に知ってほしいという気持ちで開所された。特徴としては、在宅ワーク体験イベントの開催や相談会など、再就職・起業などを目指す人たちに向けたコワーキングスペースである。

2) 東小金井事業創造センター「コウカシタスクール」

各分野の第一線で活躍する講師から、子育て、介護、教育、食、コミュニティ、健康、エネルギー、まちづくりなどに関わる実践的な内容を学べるプログラムを有するコワーキングスペースである。「SNSを生かす情報戦略」や「コンセプト・デザイン」、「売上予測や収支計画」など、さまざまなプログラムを受講することができる。

5. さいごに

子育てをしながら企業に雇われることは、場所や時間に縛られ働きにくく、両立はなかなか難しいのが実態である。また、平均世帯収入が減少している日本で、年収103万円の壁があるパートでの雇用は家計状況を厳しくさせるのみならず、女性の能力活用の機会を減らす。したがって、ノマド・ワークなどの新しい働き方を伝えていくことで、女性の就業機会が増えることであろう。またコワーキングスペースでの異職業の人との出会いは、イノベーションの創出の可能性にもつながる。主婦も含めた女性が活躍する街として、日本の抱える問題解決のために八王子が先陣を切り、成功モデルの企画を発信できると良いと考える。

<主要な参考文献・サイト>

- ・「女性就業率の変化」（厚生労働省）
- ・「スウェーデン、フランス…女性の就業率が80%を超える理由」（<https://www.recruit.co.jp>）
- ・「M字カーブの定義とは」（<https://bizhint.jp>）
- ・コワーキング COCO プレイス ホームページ
- ・東小金井事業創造センター KO-TO ホームページ

(2019年10月15日アクセス)